

株式会社ハビタ会社案内

habita

人と自然の「関わり直し」を創出し、
地域を豊かにする

2026.1

MISSION


小学校・市民協働による遅野井川親水施設
（杉並区）


花の木公園レインガーデン市民施工
（葉山町）


都心の部活動的干潟再生
（竹芝干潟、港区）


リュウキンカの郷雨庭
（あさぎり町、熊本県）


石組み水制づくりによる河道内自然再生
（帷子川、横浜市）

ハビタの理念

人と自然の「関わり直し」を創出し、地域を豊かにする

地域において人と自然への関わり方を、まず小さなことから変えてみる。

地域の自然やランドスケープへの関わり方の変化は、多様な人びととの連携や協働を伴い、地域の現状と未来を考えるきっかけを生み出します。

ハビタは、「関わり直し」のスモールプロジェクトを契機に、地域の環境・流域共生のビジョン仮説を描き、現地での検証を踏まえ、地域と自然の関わりを編み直し、共感・協働の輪を広げるボトムアップ・アプローチを通した環境・流域共生地域づくり・まちづくりを推進します。特に、流域スケールで、自然と人びとの関わりが生み出すランドスケープの視点から地域を捉えます。

また、地域の環境課題を改善するとともに、健康、遊び、景観、教育、にぎわいなど多様な体験価値があり、自然を感じる感性に訴求するネイチャー・センシュアス（nature sensuous）なグリーンインフラの創出と持続的運営を担います。

視座として、地域の資本（自然資本、社会資本、人的資本）を活用し、地域の人びとが主体的に地域の自然／社会環境をケア・お世話することを通して、 地域資本を豊かにする「地域資本スチュワードシップ」（local capital stewardship）の取り組みを大切にします。スチュワードシップを通して、地域の人びとがつながり、楽しみながら学びあい、各自の能力を発揮する自立的なコミュニティづくりを推進します。

ハビタの３つのバリュー

01 手づくりのパブリック

02 体験価値のあるグリーンインフラ

03 流域ランドスケープアプローチ

事業メニュー

ボトムアップアプローチによるグリーンインフラの地域実装、持続的運営支援

地域のステークホルダーの主体的な関与、協働に基づいたボトムアップ･アプローチを通して、地域の自然・社会資本を活用し、地域の価値向上に寄与するグリーンインフラ戦略の策定、実装、持続的運営を伴走支援します。手法として、地域人材の協働の可能性を把握するステークホルダー調査、GIS等を使用したグリーンインフラ適地評価、グリーンインフラ地域ビジョンづくり、地域実装計画、市民施工ワークショップ、持続的運営のための体制づくり、効果測定、広報を組み合わせ、地域の主体性を引き出す統合的な支援を行います。

ネイチャー･センシュアスなグリーンインフラ、ランドスケープの計画･デザイン、管理運営、効果測定

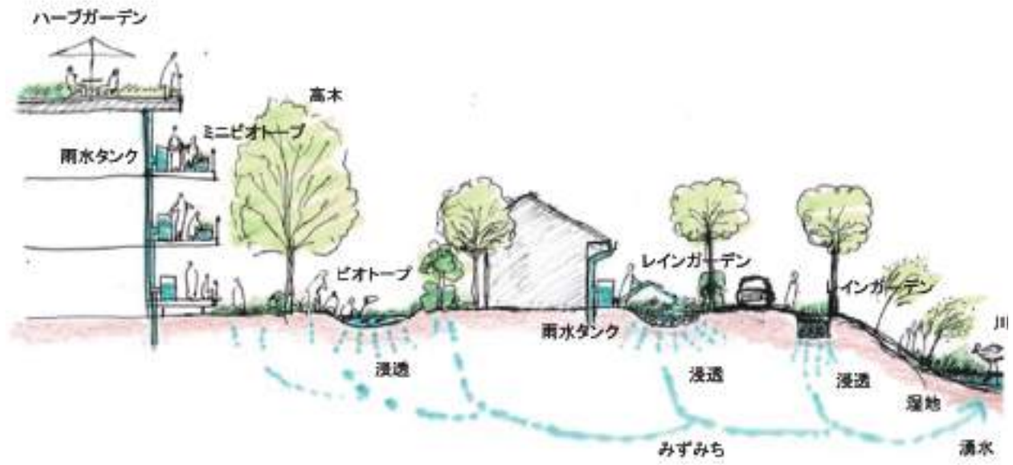
エリアや敷地の雨水流出抑制を行い、生物多様性やコミュニティ活性化、景観、交流、教育など多様な効果を発揮するグリーンインフラやレインガーデン（雨庭）、ランドスケープの計画、設計、管理運営、効果測定を行います。特に自然を感じる感性に訴求すること（ネイチャー･センシュアス）を重視したデザインを行います。手法として、地域スケールの流域、生態系、コミュニティのポテンシャルと課題を把握した上で、流出抑制や環境の目標を設定し、利用者の体験価値、知覚品質が高いグリーンインフラ、環境共生ランドスケープをデザインします。計画や施工では、参加型手法を取り入れ、持続的な管理運営に移行できる協働マネジメントを行います。施工後は、浸透能･流出量測定、生物調査、利用者調査等を行い効果を多面的に評価します。

協働･共創による地域価値創出支援

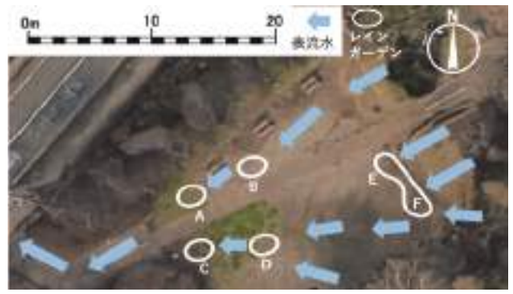
多様な人びとの協働・共創によるオープンイノベーションを通して、自然／社会へのポジティブなインパクトを高めるプロセスをデザインし、マネジメントします。①現場体験、②自由な意見交換の場、③共通の目標の設定、④スモールプロジェクト実施、⑤インパクト評価の「協創・共創サイクル」を回すことで、現場体験に基づく参加者の多様な意見を引き出し、小さな取り組みからのフィードバックを積み重ねることでインパクトを最大化し、地域への様々な波及効果を狙います。

提供サービス

- グリーンインフラ、ランドスケープの計画・構想
- グリーンインフラ、ランドスケープのデザイン・設計
- グリーンインフラ、ランドスケープの管理・運営
- 計測評価（自然系／社会系、調査設計・実施）
- 協働プロジェクト運営（コミュニティ運営、協議会支援等）
- ワークショップ、フィールドワーク、研修の企画・運営
- 情報発信（メディア企画、編集、制作）
- リサーチ（共同研究）
- イベント企画運営（社会実験、公共／民間空間活用等）
- 商品開発（環境エデュテインメント商品）















流域まちづくりとは？

流域まちづくりは、都市を流域視点からデザインし、地域主体との協働・共創によりアクティベートさせる方法です。都市に住む私たちにとって、流域という言葉は範囲が広く感じられ、イメージを持ちにくいものです。

ではどうすればよいか？まずは自らが住むまちなかを歩き、雨水が流れる場所、溜まる場所を観察することから始めます。一枚のお皿のように水が集まる地形範囲が一つの小流域です。小流域は隣接する小流域と連結しさらに大きな流域を形成します。GIS で地形データから小流域を分割生成した「小流域マップ」があると流域の特徴を把握しやすいでしょう。次に小流域の中から、泥水流出や水たまり等、住民に被害を与えている場所を特定します。そのような「小さな被害」を発生させている小流域から市民や民間等の地域主体がグリーンインフラにより関与可能な小流域単位を抽出し、流出抑制を推進するモデルエリアを設定します。

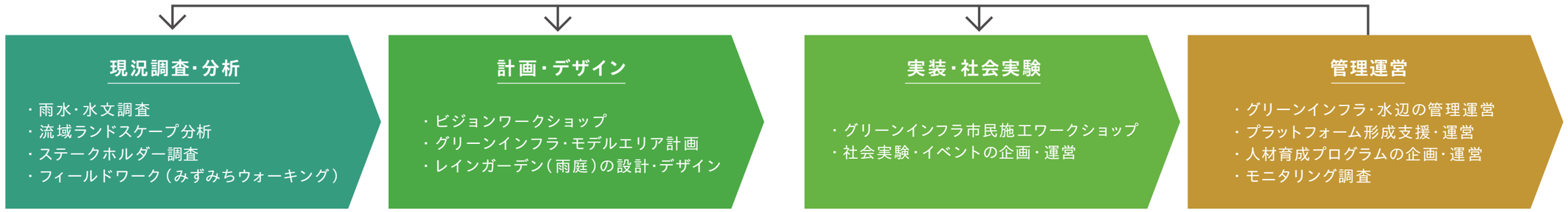
さらに、エリアにおいてグリーンインフラの推進主体となりうるステークホルダーの特定を行います。モデルエリアにおいては、流出抑制のみならず、エリアの課題解決や魅力向上に資するグリーンインフラのあり方を検討します。ステークホルダーとのビジョンワークショップはとても有効なインプットになるでしょう。以上により形成したグリーンインフラ・エリアビジョンを踏まえ、エリア内の拠点施設において敷地単位のグリーンインフラの計画・デザインを行います。

エリア内のグリーンインフラ実装は地域主体との協働・共創ワークショップにより推進します。自ら施工する現場体験を通して、主体的にグリーンインフラに関与するモチベーションが生まれます。地域主体が実施可能な維持管理方法、モニタリング手法を共に開発し、スモールプロジェクトとして発展させていくことで、エリア内で自走する管理運営の形成を狙います。場所に根ざしたスモールプロジェクトを多発化し、連携させていくことで、より大きな流域への意識付け、波及効果が生まれることが期待できます。小流域の中で地域主体が自ら関与、ケアできるデバイスとしてのグリーンインフラを導入することは、流域を自律分散型にマネジメントするきっかけを生み出します。



ステップ

流域まちづくり、グリーンインフラを　実装・推進するプロセスを一気通貫する技術



メソッド

雨水・水文調査
対象地の浸透能、流出量等について測定・分析します。効果モニタリングにも活用します。

流域ランドスケープ分析
GISを活用し、地形データから流域分析を行い、小流域界、流路を把握します。土地利用や地形、植生、浸水実績、ステークホルダーなどのランドスケープ情報と組み合わせ、グリーンインフラ実装に適した場所を把握し、マップとして表現します。

ステークホルダー調査
事業に参加、協働する可能性のある多様なステークホルダー・人材について、ヒアリング調査等を通してインタレスト（関心と懸念）を把握し、事業への協働促進、コンフリクト回避に活用します。

フィールドワーク（みずみちウォーキング）企画・実施
参加者とともに、地域の環境を再発見し、地域資本を発掘するためのフィールドワークを実施します。小流域マップを使用し、まちなかの水の流れを把握するウォーキングなど、テーマに合わせた分かりやすいマップ、魅力あるコースを開発し関心を高めます。

グリーンインフラ・ビジョンワークショップ
地域のランドスケープやグリーンインフラの未来像に関して、多様な主体のアイディアを引き出し、意見を集約するためのプロセスを計画し運営します。分かりやすいイラストや地図等のインプット、現場体験を通した意見の引き出しなど、活発なディスカッションのための適切な場づくりを行います。

グリーンインフラ・モデルエリア計画
計画対象地を小流域として集水面積を設定した上で、水たまりや泥水流出などの課題を把握し、敷地での浸透能、流出量測定、生息地調査等を行い、計画目標を設定し、利用者への知覚品質の高いグリーンインフラを設計します。

レインガーデン（雨庭）の設計・デザイン
計画対象地を小流域として集水範囲を設定した上で、泥水流出などの課題を把握し、雨水水文調査等を踏まえた計画目標を設定し、多機能かつネイチャー・センシュアスなレインガーデン（雨庭）等のグリーンインフラを設計・デザインします。

グリーンインフラ市民施工ワークショップ
レインガーデン（雨庭）や自然再生等のグリーンインフラを、現地の材料も活用しながら参加者とハンドメイドでつくりあげます。事前施工と組み合わせた参加者の能力・関心に応じた作業分担や、分かりやすい作業手順書も作成します。

社会実験・イベントの企画・運営
まちやランドスケープの将来像に関する仮説とターゲットを設定したうえで、その検証を行い、さらなる協働や巻き込みを促す社会実験・イベントを企画・運営します。

グリーンインフラ・水辺の管理運営
民間、公共の緑地や水辺において、環境目標を踏まえたモニタリングと管理、利用者へのプログラム提示、コミュニケーションの実施、体制の運営等を通して、持続的運営を行います。

プラットフォーム形成支援・運営
プレイヤーと行政・企業の中間に立ち、プレイヤーの活動を支援し、情報を共有するための中間支援プラットフォームの形成をコーディネートし、運営を行います。

人材育成プログラムの企画・運営
グリーンインフラやネイチャーポジティブを理解、実践できる人材の育成を目的とし、ターゲットに応じて、現場体験やレクチャーを組みあわせた育成、研修プログラムを企画、運営します。

モニタリング調査
流出抑制、環境、コミュニティなどの目標に対して、指標を設定し、効果を測定するモニタリング調査を行います。

メディアの企画、編集、デザイン、制作（web、紙媒体、SNS）
メディアのターゲットやポジショニングを設定した上で、訴求しうるコンテンツを制作し、デジタルからアナログまで適切な媒体を組みあわせた情報発信を行います。

内水氾濫抑制に貢献するコミュニティ治水の推進

コミュニティ治水に貢献するグリーンインフラの調査検討・
WS 運営支援業務委託 M市下水道課（東京都）（2025年）

CASE 01















左上：モデルエリアイメージ、右上：公園における雨庭分散配置検討イメージ、左下：公園の表流水をキャッチする雨庭イメージ、右下写真：モデルエリア内のGIポテンシャルの例。

本プロジェクトでは、内水氾濫リスクが高い地区をモデルとし、市民が関与可能なGI技術を通した地域コミュニティの協働による流域治水を推進します。内水氾濫地点に対して、分散型GI による流出抑制が有効な小流域エリアを特定し、モデルエリア GI 基本構想を検討。モデルエリアでは、協働により推進のポテンシャルのある公共・民間空間を抽出し、ステークホルダー調査を通して協働可能な主体を検討。また、エリア内の内水氾濫地点に近い市立公園において表流水をコントロールする雨庭を計画デザインし、市民協働によるワークショップで施工を行い、ステークホルダーの関与のきっかけを生み出します。雨庭では、市民が関与できる維持管理手法、効果測定モニタリング方法の開発を目指します。さらに、市全域の公共空間（公園、道路、公共建築等）における流出抑制型GIポテンシャルを抽出・整理し、次年度以降の市域におけるGI展開を検討します。

推進主体としての造園事業者、市民ガーデナーをターゲットとした雨庭（レインガーデン）づくり・植栽管理ワークショップ

雨水流出抑制に資するグリーンインフラ活用推進業務委託　八王子市水循環部（R6）・環境部（R7）、（2024年～2025年）

CASE 02













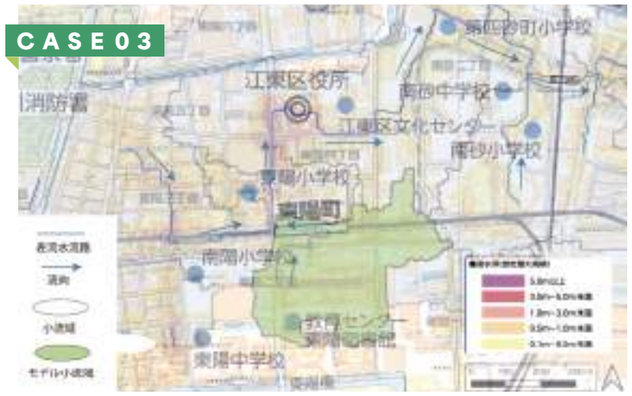
上左・上右：富士森公園の雨庭（レインガーデン）と植栽ワークショップ、中左：市域グリーンインフラモデルエリアの検討、中右：雨庭づくりワークショップでの落ち葉とぐり石による貯留層施工、下左：長池公園レインガーデン（雨庭）デザイン（作画：滝澤恭平）、下右：長池公園での雨庭（レインガーデン）づくりワークショップ

令和６年度には、ステークホルダー調査を通して、市域でグリーンインフラの主体的な担い手となりうるターゲットとして、造園事業者等（八王子造園業組合、公園指定管理者）と市民ガーデナー（グリーンパートナー）を特定。また、市域全域で流域被害の要望相談データ等を活用したGI ポテンシャル調査を行い、モデルエリアと雨庭候補地を抽出しました。以上を踏まえ、 富士森公園においてターゲットに向けた雨庭（レインガーデン）づくりワークショップを実施。公園内道路から一般道への流出をキャッチするものや、斜面の土壌流出を抑制するものなど公園の様々な流出課題に対応するものとしました。
令和７年度には、雨庭の維持管理を学ぶ市民ガーデナー向けの植栽ワークショップと、長池公園内園路の泥水抑制を行う雨庭づくりを通して雨庭（レインガーデン）の計画・デザインと施工技術を学ぶ造園事業者向けのワークショップを実施しています。

民地・公園・水辺・街路が連携したGIビジョンから企業駐車場のレインガーデン実装まで、エリアのGI実装を民間主導で推進

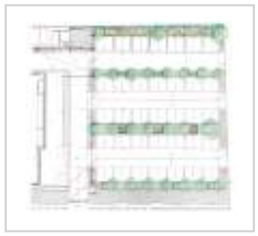
都市構築型グリーンインフラ活用事業　東陽町（江東区）／竹中工務店・水辺総研（2023年〜現在）

CASE 03















左上：東陽町の小流域分析、右上：GI 推進エリアマップ、中左：グリーンストリートのダイアグラム、中中：駐車場レインガーデン全体配置イメージ、中右：駐車場側溝から導水するレインガーデン断面、下左・右：竣工したレインガーデンとリビングハブとしてのレイン・ベンチ

東陽町における小流域と表流水の経路をGISで分析し、下流部の浸水を抑制するGI推進エリア（グリーンストリートエリア）を特定しました。一方、東陽町新砂エリアは、大型事務所ビルが集積する反面、滞留空間が少なく親水空間（汐浜運河）まで駅から歩行距離が長いという課題がありました。そこで、T社の駐車場の流出抑制を行うレインガーデンを計画し、近隣ワーカーたちのランチ時休憩スペースなどの滞留拠点「リビングハブ」としても機能するように位置づけました。駐車場の不浸透面から集水されるU字側溝をコア抜きし、隣接する植栽地に導水するレインガーデンとしました。試験用小型レインガーデンを設置し、降雨時に流出測定を行い浸透貯留量を検証し、設計諸元を導きました。さらに隣接する提供公園、水辺空間にて環境調査および周辺ステークホルダーの意見を踏まえた上で、まちづくりと連携したGIビジョンづくりを行っています。

市民による公園の泥水流出抑制から始まり、子どもが生き物と遊べる草地環境の維持へ発展

花の木公園レインガーデンプロジェクト・GI地域実装アクションリサーチ　葉山町・地球研（2021年〜継続中）

CASE 04









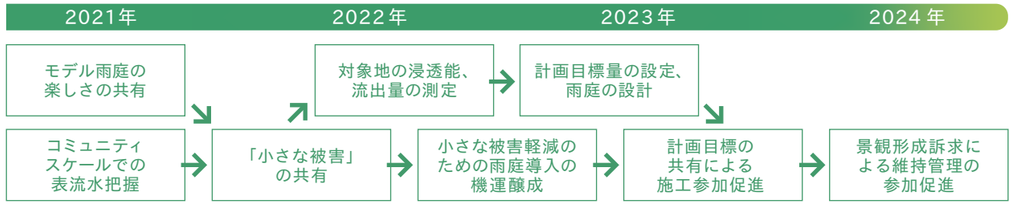








上左：公園からの流出、上中：モデルレインガーデン、上右：みずみちウォーキング、中左：流出量測定、中中：レインガーデン配置図、中右：竣工後の風景、下左：レインガーデン施工ワークショップ、下右：子どもが生き物と遊べる高茎草地環境



花の木公園では、表土が踏み固められ、雨水浸透機能の低下の結果、大雨の度に敷地外の道路へ泥水流出を繰り返し、通勤・通学の妨げとなっていました。まちなかを歩き雨水による被害を把握する「みずみちウォーキング」や、民地でのモデルレインガーデン設置などを行い、共鳴する市民を増やし、公園にてレインガーデンの市民施工ワークショップを実施しました。計画では、浸透能、流出量測定を行った上で流出抑制計画量（60mm/hrの30% 抑制）を設定し、公園全体をひとつの小流域として捉え、雨水の流れに分散的にレインガーデンを配置しました。施工後には、泥水流出の頻度や量が減ったとの報告が住民からありました。設置後のレインガーデンでは、流出量の効果測定を行うとともに市民が定期的な草刈りを行い、子どもが生き物と遊べる適度な高茎草地環境の維持・保全を行い、公園の価値向上に貢献しています。

CASE05

公園での水たまり・表流水抑制を行う雨庭づくり体験を通した区民によるGIビジョンづくり

グリーンインフラ杉並区民会議　杉並区土木計画課（2024年）









左上：大きな水たまりを分散浸透させる竪穴掘削、右上：参加者がデザインしたプロジェクトロゴ、右中：水たまりを植栽地へ導水、左下：竪穴による分散浸透のイメージ、右下：市民の意見をまとめた杉並区グリーンインフラビジョン

第１回	→	第２回	→	第３回
区の水の現状とGIを知り、区民でできる雨庭のアイディアを考える。		自ら考えたアイディアを基にミニ雨庭をつくることを体験する。		区域でGIをやりたい場所と内容、杉並区らしいGIのあり方を話し合う。

グリーンインフラの区域推進に向けて区民によるビジョンづくりを行う「グリーンインフラ杉並区民会議」の企画・ファシリテーションを実施。会議では、区の出水の課題、グリーンインフラの考え方を学んだ後、柏の宮公園において、雨の日に水が溜まりやすい場所、泥水が流出する場所を観察し、どんなグリーンインフラを作ればよいか、グループで話し合いました。大きな水たまりができる場所に小型の竪穴をたくさん掘り面的に浸透させる方法、水はけの悪い場所の表流水を植栽地へ導水・浸透させる方法など、様々な流出被害に応じたアイディアが生まれ、区民協働による施工を行いました。参加者が自ら考えGIを施工した体験を踏まえ、取り組みを区全体に広げるためのビジョンや体制について話しあい、杉並区民GIビジョン案としてまとめました。

CASE06

枯山水を生きた山水にアップデート

リュウキンカの郷雨庭　あさぎり町（熊本県）（2025年）／（公財）地方経済総合研究所







上：リュウキンカの郷雨庭のデザイン（作画：滝澤恭平）、下左：支流に見立てた雨樋からの「遣水」、下右：本流と見立てた雨庭窪地部

球磨川の流域治水への貢献を目指して、地元の食資源を活かした交流拠点「リュウキンカの郷」にて枯山水庭園を雨庭へ再生しました。枯山水の池底に貼られていたモルタルを撤去し、地元産のコンポスト・牛糞堆肥を加えて植物を活かす土壌と表層に整え、植栽の成長による浸透能向上と石組み景観の鑑賞性向上の両立を狙いました。球磨川の流れを模した石組み枯山水を継承し、建築雨樋からの雨水を、球磨川の「支流」に見立てた「遣水」で庭を巡らせゆっくりと「本流」としての雨庭窪地へ導水。窪地での貯留と、雨庭底面からの浸透に加え、竪穴による鉛直方向への浸透を促進しています。
雨庭と周辺には四季を彩る自然風の植栽を導入しました。熊本県造園建設業協会の協力のもと、市民・事業者との協働で施工を行い、地元小学校の環境教育素材や地元農家民泊への普及等への動きが広がっています。

民間企業が造成した都心の人工干潟で、学校、地域、関心層で部活動的な干潟再生ムーブメントを育む

竹芝干潟　港区（2016年～継続中）／JR東日本、竹芝タウンデザイン

CASE 07



上:干潟マイスター講座（現干潟ファンクラブ）の活動風景、下左:毎月開催され親子に海と生き物に触れる空間を提供する干潟オープンデイ、下右：芝商業高校「ひがた部」生徒による干潟絵本

JR東日本が開発事業を行った竹芝地区のウォーターズ竹芝。開発地隣接の汐留川水域には様々な稚魚・幼魚が生息し「東京湾のゆりかご」と言える場所であったことから、かつて東京湾に広がり「江戸前」の生き物たちの棲家であった干潟が計画・造成されました。近隣の芝商業高校生徒が活動する「ひがた部」や地域住民、干潟に関心を持つ親子らと共に、水と陸の接点空間に様々な生き物が生息する「水辺のエコトーン」を再生するための取り組みを行っています。高校生たちによる干潟絵本の製作、親子でつくる石積みによる陸生カニの住処、乾燥した干潟を湿らせる「みずみち」、魚が生息する「潮溜まり池」づくりなど、それぞれができる多様なチャレンジを積み重ねながら、干潟再生のムーブメントが広がっています。

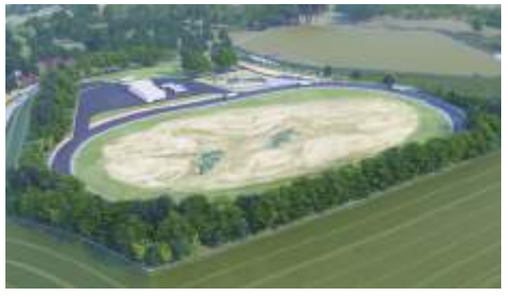
造成地を半自然草地・湿地と樹林として自然再生するネイチャーポジティブ・ランドスケープデザイン

大成建設グループ研究施設ネイチャーフィールド 田村市（福島県）（2024年～継続中）/ 大成建設

CASE 08







上：全体ランドスケープスケッチ、下左：竣工写真（提供：大成ロテック株式会社）、下右：施工30年後のイメージパース

次世代舗装技術の開発とともに自然共生・再生などの環境課題解決手法を実証・評価する大成建設グループの新たな研究施設において、大成建設の自然再生計画に基づき、ランドスケープデザイン設計の支援を実施しました。

【舗装のテストコース内】
集水域の雨水が窪地に集まるコンターの設定、湿地環境の形成支援、半自然草原の成立に向けた専門家との協議。

【舗装のテストコース外】
多様な環境を生む微地形・マウンドの設定。地域性種苗とギャップ空間を活用した樹林化計画の支援。これらの要素を有機的に統合したランドスケープデザインを行い、ネイチャーポジティブの実現に貢献する活動を支援しています。

大成建設グループの
新たな研究施設の紹介

その他の実績

奄美大島サンゴを守るレインガーデン

2025年／日本自然保護協会

泥水流出によって生息域が侵されている奄美大島のサンゴ。流出の発生源の陸域で住民､関心層とのワークショップで､土壌流出を防止する窪地タイプのレインガーデンを施工。



善福寺公園遅野井川親水施設

2012年～2018年／善福寺川を里川にカエル会として

フェンスが張られ見捨てられた水路の再生。都心で生き物に触れる小川という小学生の夢を、市民、環境団体、小学校、専門家、行政との熟議と協働で実現。



極楽寺雨庭ランドスケープ計画

2024年～継続中／極楽寺（鎌倉）

庫裡の屋根からの雨水は､「レインウォール」を伝い枯山水の庭を流れ､現地発生の石で組まれた「雨落ち滝」を下り、浸透池へ向かう。水はけが悪く樹勢が弱ったサクラの参道の再生へと展開するデザイン。



高輪ゲートウェイシティ・ネイチャーポジティブまちづくりビジョン策定

2023年／JR東日本

高輪崖線の庭園・公園群のみどりから生き物を呼び込む拠点としてのネイチャーポジティブビジョン。在来種植栽計画、ビオトープ計画、地域中学校とのフィールドワーク実施。



葉山湧水敷地調査・ランドスケープ計画

2025年～継続中／個人邸

斜面下に位置し敷地内で湧水が出る住宅地。地盤調査、流出量調査、浸透能調査を行い、雨水をビオトープとして活用し、適切に処理するためのランドスケープを計画。



Hasso Camp Project ミライ2025

2025年／博報堂

高校生を対象に社会課題解決のための発想力を育むプログラムの企画、講師。ネイチャーポジティブとまちづくりを軸にした３日間のプログラムフィールドワーク（竹芝地区）を通じて、自然と共生する都市のあり方を探究。



無印良品「自然と備える、ここちよいくらしいつものもしも」ワークショップ

2025年～2026年／無印良品、ロフトワーク

無印良品のプロダクトを使ってベランダでできる雨水を貯めて使うライフスタイルを DIY で生み出すプログラムを若者層と開発するワークショップ。横浜市未来創造会議とコラボレーション。



大成建設ネイチャーポジティブwebサイト

2026年／大成建設

大成建設のネイチャーポジティブweb サイトのディレクション、制作プロデュース。ネイチャーポジティブ事業のステートメント策定支援と掲載記事の制作。



北総ローカルメディア「のあそびくらし」

2024年～継続中／総武建設

遠くの大自然やリゾートに赴くのではなく、日常の中に「の・野」の豊かさを取り込み、遊び暮らす、古くて新しい「の・野」の楽しさのある生活を北総エリアから提案するローカル・メディアのプロデュース・制作。



帷子川はまっこアユ遡上プロジェクト

2016～2018年／横浜市

アユが遡上する横浜都市河川での市民普請の石組み水制づくりによる「小さな自然再生」。既存愛護会と新参加者の協働ファシリテーション、川らしい風景のデザイン。



会社代表



代表取締役

滝澤 恭平

ランドスケーププランナー、博士（工学）

グリーンインフラ、水辺空間の計画・デザイン、維持管理運営の実績多数。大阪大学卒業。角川書店で編集者、愛植物設計事務所（ランドスケープ設計事務所）勤務等を経て2014年よりミズベリングPJディレクター、2015年株式会社水辺総研を共同設立。2022年九州大学工学府大学院博士課程修了。2023年株式会社ハビタを設立。

博論タイトル「都市の水辺再生における地域環境スチュワードシップと関与型水系基盤の計画・マネジメント」。専門：景観・ランドスケープの計画・デザイン、自然共生まちづくり、協働マネジメント、編集。
東京科学大学非常勤講師、国士舘大学非常勤講師、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム企画広報部会幹事。
『ハビタ・ランドスケープ』（木楽舎・ソトコト連載）著者



ハビタ・ランドスケープ

事業概要

1. グリーンインフラの調査、計画、施工監理、維持管理運営、広報及び教育
2. 環境共生型ランドスケープ、まちづくりの調査、計画、施工監理、維持管理運営、広報及び教育
3. 協働事業実施支援
4. 環境・社会影響（インパクト）評価
5. 地域、都市の計画及びデザイン
6. コンテンツ、メディアの編集及び制作
7. ワークショップ、イベント、研修、セミナー及びシンポジウムの運営
8. 環境エデュテインメント商品の開発及び販売
9. 前各号に附帯関連する一切の事業

株式会社ハビタ
神奈川県三浦郡葉山町一色195-13

代表取締役　：滝澤恭平
設立日　　：2023年12月26日
問い合わせ先：takizawa@habita.jp
web　　：habita.jp

habita